

金ヶ崎町

# 教育振興基本計画

(平成 28 年度～平成 32 年度)

金ヶ崎町教育委員会

# 目次

第1章 序論	1
第1節 計画策定の趣旨	1
第2節 計画の性格	1
第3節 計画の期間	1
第2章 総論	2
第1節 基本理念	2
第2節 施策の基本的方向	2
(視点1) 未来を担う次世代を育成する学校教育の推進	2
(視点2) 生涯を通じて学びあう人づくりの推進	3
(視点3) スポーツに親しむ人づくりの推進	3
(視点4) 歴史を伝え活かす人づくりの推進	3
第3節 施策の体系	4
第3章 各論	6
第1節 未来を担う次世代を育成する学校教育の推進	6
1 幼児教育の充実	6
(1) 現状と課題	6
(2) 目指すべき姿	6
(3) 施策の方向	7
① 幼稚園経営の充実	7
② 教育内容の充実	7
2 義務教育の充実	8
(1) 現状と課題	8
(2) 目指すべき姿	9
(3) 施策の方向	9
① 学校経営の充実	9
② 教育内容の充実	10
3 英語教育の推進	11
(1) 現状と課題	11
(2) 目指すべき姿	11
(3) 施策の方向	12
① 英語活動の充実	12
② 英語教育の充実	12
4 特別支援教育の推進	13
(1) 現状と課題	13
(2) 目指すべき姿	13

(3) 施策の方向	13
① 支援体制の充実	13
② 学習環境の整備	14
5 ふるさと教育の推進	14
(1) 現状と課題	14
(2) 目指すべき姿	14
(3) 施策の方向	15
① 地域の教育力の活用	15
② 支援体制の充実	15
第2節 生涯を通じて学びあう人づくりの推進	16
1 生涯教育環境の充実	16
(1) 現状と課題	16
(2) 目指すべき姿	17
(3) 施策の方向	17
① 生涯教育推進体制の充実	17
② 生涯学習環境の整備充実	17
③ 地域社会で子どもを育む生涯教育の推進	18
④ 地域社会の担い手を育む生涯教育の推進	18
⑤ 豊かな高齢期を支える生涯教育の推進	18
⑥ 芸術文化活動の促進	18
2 読書活動の推進と資料の活用	20
(1) 現状と課題	20
(2) 目指すべき姿	20
(3) 施策の方向	21
① 読書活動の推進	21
② エミリオ・ディキンソン資料の活用推進	21
第3節 スポーツに親しむ人づくりの推進	22
1 生涯スポーツの振興	22
(1) 現状と課題	22
(2) 目指すべき姿	23
(3) 施策の方向	23
① 生涯スポーツの推進	23
② スポーツ関係団体との連携強化	24
③ 情報提供の整備充実	24
④ スポーツ関係団体の支援	24
⑤ 指導者の養成と確保	25
⑥ 2016「希望郷いわて国体」への取組	25
⑦ スポーツ環境の整備・充実	25
第4節 歴史を伝え活かす人づくりの推進	27
1 文化財の保存と活用	27
(1) 現状と課題	27
(2) 目指すべき姿	28
(3) 施策の方向	28
① 文化財保護法の順守・啓発活動	28

② 国指定史跡鳥海柵跡の保存管理・活用	-----	28
③ 国選定城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区の保存・整備	---	29
④ 国指定史跡南部領伊達領境塚の保存活用	-----	29
⑤ 金ヶ崎要害歴史館の経営	-----	29
2 郷土文化の継承	-----	31
(1) 現状と課題	-----	31
(2) 目指すべき姿	-----	31
(3) 施策の方向	-----	32
資料		
幼稚園児数の推移	-----	33
児童生徒数の推移	-----	34
平成 27 年度学校施設設備の状況	-----	35
金ヶ崎町育英基金貸付状況	-----	36
進学者数の推移	-----	36

# 第1章 序 論

## 第1節 計画策定の趣旨

現在、人口減少、少子高齢化、核家族化の進行や経済情勢、雇用情勢の変化など社会構造が大きく変化しています。また、国際化、情報化の進展、科学技術の進歩、地球環境問題の深刻化などにより、教育が担うべき役割や範囲が高度化、多様化しています。

このような中において、児童生徒の規範意識や道徳心、自立心の低下によるいじめ、不登校などの問題も発生しています。また、核家族化が進行し、近隣住民間の連帯意識の希薄化、世代間交流の減少により、人と人との交流や様々な活動、経験を通じた豊かな人間関係を築くことが難しくなっています。加えて、防犯、防災、福祉、医療、介護、子育て、環境保全などの課題は一層重要度を増しており、町民自らも考え解決しなければならない課題となっています。

本町では、平成23年に「金ケ崎町 教育振興基本計画」を策定し、この計画に基づき、学校・家庭・地域が本来の役割を果たしながら、相互の連携の下、未来を拓く子どもたちを社会全体ではぐくむ教育の推進や、誰もが生涯にわたって学ぶことができ、学んだ成果や知識を地域課題の解決などの地域づくりに取り組んできました。

平成27年度末で現行計画の計画期間が終了するのに合わせ、国の第2期教育振興基本計画、岩手県民計画「第3期アクションプラン」、町の第十次総合計画等と整合を図りながら、現在の金ケ崎町の実情に合った学校教育や社会教育等を効果的に実施していくために、これまでの計画の成果を踏まえながら、昨今の社会情勢の変化等に対応する「金ケ崎町教育振興基本計画」を策定したものです。

## 第2節 計画の性格

- (1) この計画は、教育基本法第17条第2項に規定する金ケ崎町の計画として策定するものです。
- (2) この計画は、金ケ崎町の教育行政推進の基本となるものです。
- (3) この計画は、第10次金ケ崎町総合発展計画の部門別計画としての位置付けを持ち、整合性を確保しながら推進するものです。
- (4) この計画は、社会情勢の変化に対応して、弾力的に運用するものです。

## 第3節 計画の期間

この計画の期間は、平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

## 第2章 総論

### 第1節 基本理念

金ケ崎町は、昭和45年10月に「金ケ崎町民憲章」を制定し、また昭和54年6月に「生涯教育の町」を宣言して、教育委員会では「まちづくりは人づくり」を基本理念として、教育の立場からその実現に向けて取り組んできました。

これからも、「まちづくりは人づくり」「人と地域が支えあうまち 金ケ崎」を基本理念とし、「金ケ崎町民憲章」の実現に向けて取り組んでいきます。

### 第2節 施策の基本的方向

「金ケ崎町民憲章」の実現に向けて、今後5年間の教育行政を推進するために、4つの視点から教育施策の基本的方向を定めます。

学校教育については、人間形成と生涯学習の基盤を培う学校教育の重要性を踏まえ、学習指導要領の趣旨に基づく教育実践によって、子どもたちに「生きる力」を育てていきます。そのために、家庭や地域との連携・協働を通して学校教育の充実を図ると共に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるべく「確かな学力」の育成を推進し、また今日的課題である国際社会に生きる日本人としての資質、能力の育成を目指した「英語教育の町金ケ崎」の取組をより一層充実させていきます。

生涯教育については、少子高齢化社会に対応した「人づくり」を進めるため、「青少年期」（地域全体で子どもを育て生涯教育の推進）、「成人期」（地域社会の担い手を育て生涯教育の推進）、「高齢期」（豊かな高齢期を支える生涯教育の推進）の視点で施策を展開します。

また、「人づくり」を補完するため、誰もが生涯を通じて自らを高め、人と人のつながりが広がる地域づくりを支える生涯教育とその推進体制の充実を図ります。

#### （視点1） 未来を担う次世代を育成する学校教育の推進

学校教育の充実を図るとともに、学校・家庭・地域が一体となって、社会で自立していくための基礎となる「生きる力」を育み、一人一人の子どもの健やかな成長を支援します。

- 目標1 幼児教育の充実
- 目標2 義務教育の充実
- 目標3 英語教育の推進
- 目標4 特別支援教育の推進
- 目標5 ふるさと教育の推進

## **(視点2) 生涯を通じて学びあう人づくりの推進**

だれもが生涯にわたり、あらゆる機会、あらゆる場所において学び活動できる環境を整備するとともに、文化芸術活動に親しむ機会を充実させ、一人一人の夢や生きがいづくりを支援します。

**目標1 生涯教育環境の充実**

**目標2 読書活動の推進と資料の活用**

## **(視点3) スポーツに親しむ人づくりの推進**

多くの町民は日常生活において身体を動かす機会が減少し、運動不足や体力の低下を実感しています。運動不足は生活習慣病発症の一因であることから、健やかで心豊かに生活できる活力ある町とするために、生涯スポーツの振興と健康づくりを推進し、健康寿命の延伸に取り組みます。

**目標1 生涯スポーツの振興**

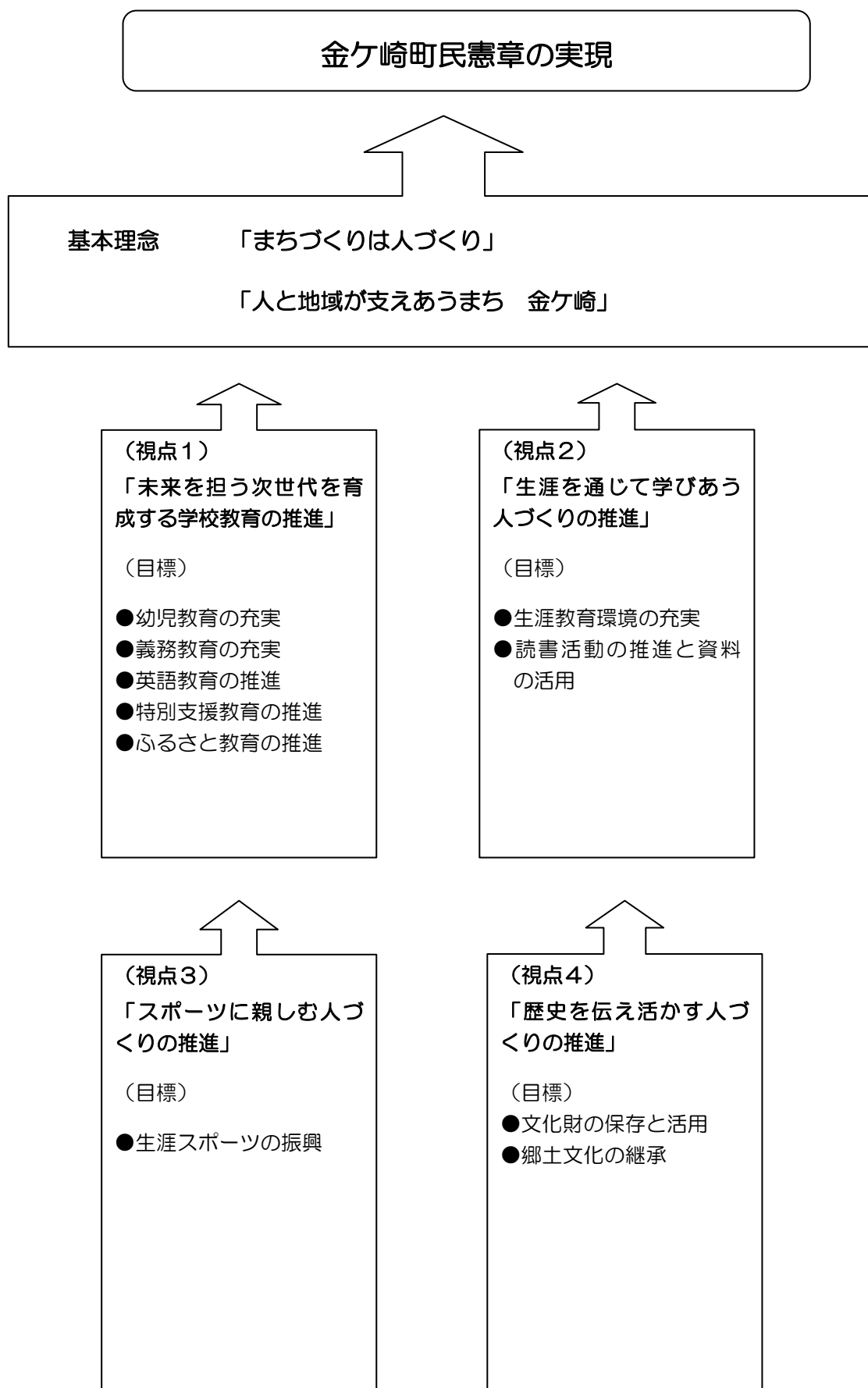
## **(視点4) 歴史を伝え活かす人づくりの推進**

当町の恵まれた文化遺産を継承し後世に伝えるとともに、その魅力を町内外に発信します。また、文化財を歴史という時間的つながりと存在する場所という物理的空間を結ぶことにより、特徴的な新たな魅力あるまちづくりに努めます。

**目標1 文化財の保存と活用**

**目標2 郷土文化の継承**

### 第3節 施策の体系





視 点	目 標	区 分
未来を担う次世代を育成する学校教育の推進	幼児教育の充実	幼稚園経営の充実
		教育内容の充実
	義務教育の充実	学校経営の充実
		教育内容の充実
	英語教育の推進	英語活動の充実
		英語教育の充実
	特別支援教育の推進	支援体制の充実
		学習環境の整備
	ふるさと教育の推進	地域の教育力の活用
		支援体制の充実
生涯を通じて学びあう人づくりの推進	生涯教育環境の充実	生涯教育推進体制の充実
		生涯学習環境の整備充実
		地域社会で子どもを育む生涯教育の推進
		地域社会の担い手を育む生涯教育の推進
		豊かな高齢期を支える生涯教育の推進
		芸術文化活動の促進
	読書活動の推進と資料の活用	読書活動の推進
		エミリオ・ディキンソン資料の活用推進
スポーツに親しむ人づくりの推進	生涯スポーツの振興	生涯スポーツの推進
		スポーツ関係団体との連携強化
		情報提供の整備充実
		スポーツ関係団体の支援
		指導者の養成と確保
		2016「希望郷いわて国体」への取組
		スポーツ環境の整備・充実
歴史を伝え活かす人づくりの推進	文化財の保存と活用	文化財保護法の順守・啓発活動
		国指定史跡鳥海柵跡の保存管理・活用
		国選定城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区の保存・整備
		国指定史跡南部領伊達領境塚の保存活用
		金ヶ崎要害歴史館の管理運営
	郷土文化の継承	郷土文化の継承

# 第3章 各論

## 第1節 未来を担う次世代を育成する学校教育の推進

### 1 幼児教育の充実

#### (1) 現状と課題

##### 《これまでの取組》

- 本町では、幼稚園評議員、保護者、地域住民と連携して、開かれた幼稚園づくりに努めるとともに、子育て相談や地域の人材活用、地域行事への参加など、各幼稚園が主体的に幼稚園経営を推進し、地域と一体となった取組を推進してきました。また、保育園、小学校と各種研究会、研修会、交流会等を計画的に行い、積極的参加に努めるとともに様々な実践交流や意見交流を行っています。中でも小学校との連携を深め、円滑な移行・接続を図るために、幼児の発達に即した指導の充実に努めてきました。
- 各幼稚園では、豊かな自然、伝統、文化等を積極的に活用し、農業大学校等との交流による自然体験学習、農作物栽培等の体験学習、高齢者との交流会、伝統芸能の継承を通じた地域との交流学习、また英語活動を取り入れるなど、特色ある幼稚園教育を進めてきました。
- 幼稚園や保育園にALTを配置し、園児から英語教育に親しみをもつ機会を設けてきました。

##### 《課題》

- 少子化や保護者の雇用形態の変化等により、町立幼稚園への入園児数が減少しており、集団活動で養うことができる教育的要素への対応が必要です。
- 国では、平成24年に子ども・子育て関連3法を成立させ、平成27年4月から『子ども・子育て支援新制度』をスタートさせました。この改訂において、認定こども園制度の改善や地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実、子ども・子育て会議の設置などを決めました。近年は、前述の制度を待つまでもなく、生活様式や価値観の多様化による保護者のニーズも多様化し、預かり保育の時間延長や給食の実施等、幼稚園経営のあらゆる面について、これまで以上に柔軟な対応が求められるようになりました。この多様なニーズに対応するため、教育機関である幼稚園と、保護者の就労環境や、ニーズの変化等を分析して、給食の実施や預り保育の充実など、金ヶ崎町の幼稚園としての望ましい姿の検討が必要です。
- 特別な支援を必要とする園児が増加傾向となっていることから、園児の安心安全の確保のため、幼稚園教諭のスキルアップや特別支援員の継続配置が必要です。

#### (2) 目指すべき姿

就学前教育は、義務教育の基盤を担う重要な教育であります。そのため、幼児

期の特性を踏まえ、家庭とのつながりや地域との関わりを大切にしながら、教師と幼児の信頼関係を十分築いた上、幼児と共によりよい教育環境を創造するように取り組みます。

(目標指標)

目標指標	現状値	目標値
給食（主食・おかず）の提供	—	全園

(3) 施策の方向

①幼稚園経営の充実

幼稚園の経営は、家庭や地域と共に推進することが不可欠です。そのために、日常的な保護者との情報交換と保育や家庭教育のあり方について情報提供、園内活動への地域の方々の参加や園児の地域行事への参加、保育園や小学校と研究会や交流により、家庭・地域・保育園・小学校との連携に努めます。

また、少子化や現在国で検討されている幼保一体化への対応について、就学前教育のあり方を含めて検討し預かり保育の時間延長や給食の実施等、保護者の就労環境や、ニーズの変化等を分析して、対応するとともに、園内研究会や研究指定による指導力の向上を図ります。

[主要事業]

- 預り保育
- 一日体験入学
- 幼保合同研修会
- 校長副校長園長主任教諭合同会議
- 幼稚園研究指定事業
- 幼稚園の在り方検討委員会

②教育内容の充実

保護者や地域住民の願いを把握し、地域の伝統、文化などの特性を活かし、幼児の実態に応じた特色ある教育内容の構築に努めます。また、早くから英語に親しむ機会をつくるため、外国語指導助手を定期的に訪問させて英語活動に取り組みます。特別な支援を必要とする幼児一人一人に適した保育を行うため、幼稚園教諭のスキルアップや支援員の配置を継続するとともに、保護者との連携を密にして支援の充実を図ります。

[主要事業]

- 特色ある幼稚園づくり事業
- 外国語教育推進事業
- 特別支援員配置事業

## 2 義務教育の充実

### (1) 現状と課題

#### 《これまでの取組》

- 変化の激しい現代社会において、児童生徒を取り巻く社会状況、とりわけ保護者をはじめとする家庭の状況も大きく変化しています。本町でも、生活や価値観が多様化し、さらには保護者の勤労環境の変化等の様々な社会的な変化が起きています。そのため、望ましい生活習慣の形成等、社会生活の基盤そのものの大切さがこれまでも増して重要視されています。全国的には、児童生徒についての様々な問題が発生していますが、本町では不適応や不登校などの問題を抱える児童生徒を支援するため、支援体制の整備や関係機関との連携・協力を努めてきました。また、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、基礎的知識や技能を身につけ、確かな学力を育成するため、個々に応じた少人数指導や、個別指導に努めてきました。
- 教職員については、積極的に各種研修会への参加により、その資質の向上に努めてきました。また、各小・中学校では毎年研究テーマを掲げ、全職員が一丸となって課題事項の解決に向けた実践を積み重ね、授業力の向上に向け努力してきました。さらには、総合訪問、学校公開、一人一公開授業等々の実施を通して、資質向上に努めてきました。
- 教育環境整備については、金ヶ崎中学校、第一小学校及び永岡小学校の校舎改築や小中学校の耐震診断を実施し、耐震補強が必要な施設については耐震補強事業を行いました。全小中学校に太陽光発電システムを活用し、蓄電池等の施設整備を行い災害時の避難施設としての充実を図りました。また、トイレの大規模改修等々の環境整備に努めてきました。

#### 《課題》

- より一層の激しい変化が予想されるこれからの時代に生きていくためには、確かな学力、豊かな心、健やかな体の、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を児童生徒に育成しなければなりません。そのためには、学校教育の充実を図るとともに、家庭や地域社会の支援体制を築き、社会全体の教育力の向上を図らなければなりません。また、少子化等により児童数は減少しており、集団活動の中で養うことができる教育的要素などへの対応が求められます。深刻ないじめ事例が発生しないよう、学校や地域が一体となっていじめ防止に努めることが必要です。
- 近年は、生活様式や価値観が多様化し、学校や教職員に対して保護者や地域住民が求める内容も多岐に及んでいます。本町の各小・中学校では保護者や地域の声に耳を傾け、職員が一丸となって学校教育の充実に取り組んでいますが、学校経営上留意すべきことも少なくありません。的確な見通しや手立てを持ち、学校経営をより充実させることが必要です。
- 児童生徒が安心安全な学校生活を過ごせるために教育環境の整備を計画的に行う必要があります。また、IT教育の充実のための検討が必要です。

## (2) 目指すべき姿

学校教育では、児童・生徒の学力の実態を明らかにしながら、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着と、思考力・判断力・表現力等の育成を目指した学習指導の充実を図り、一人ひとりに即した授業の創造に取り組みます。

(目標指標)

目標指標	現状値	目標値
学習定着度状況調査県平均点数差 (中学校5教科)	-8.2点 (H26)	県平均点以上 (H32)
地域貢献活動(ボランティア活動)の 実施回数	年2~3回 (H26)	年2回以上 (H32)
体力運動能力テスト 20Mシャトルランの県平均との比較	+0.6回 (H26)	県平均以上 (H32)
家庭学習の時間 1時間未満の割合 (中学校)	32.6% (H26)	0% (H32)

## (3) 施策の方向

### ① 学校経営の充実

P D C A サイクルによる改善を図りながら、いわて型コミュニティスクールをはじめとする、目標達成型学校経営を推進し、年度ごとに明確な目標に向かった学校経営を行います。授業での実践的能力や問題解決能力、その他の資質、能力の向上のため、各種研修会への積極的、計画的な参加を進め、校内の研究体制を整備し、日常的実践に基づく研究推進とその充実に努め、教職員の資質の向上を図ります。幼稚園や保育園と小学校、小学校と中学校との連携や交流活動を推進し、児童生徒一人一人の心身の健康と発達の情報を共有することにより、児童生徒の健やかな成長を支えます。各学校において、学校評議員制度の活用の充実に努め、地域と連携したイベントの実施や、地域住民の様々な知識・技能や体験活動を積極的に取り入れ、開かれた学校づくりを推進します。少子化、核家族化、情報化等により、人間関係や地域と人々のつながりが希薄化し、家庭や地域社会の教育力が低下していることから、学校と家庭や地域との連携により、その教育力の向上に努めます。

[主要事業]

- 小中学校総合訪問
- 学校研究指定事業
- 校長副校長園長主任教諭合同会議
- 小・中学校教務主任会議

- 小中授業参観・情報交換研修会
- いじめ問題対策連絡協議会
- グラウンド改修等教育施設整備事業

## ②教育内容の充実

基礎的な知識・技能をしっかり身につけさせ、確かな学力を育成するため、個々の状況に応じた指導をするための少人数指導と個別指導、学校での学習がより身に付くような家庭での学習課題の工夫、集団生活への適応と基礎基本を定着させるための指導補助員の配置などに努めるとともに、全国学力・学習状況調査、岩手県学習定着度状況調査、標準学力検査等を計画的に実施して児童生徒の学習状況を把握して授業改善に結びつけるなど、きめ細かな学習指導を推進し、個々の学力向上に努めます。

21世紀を生きる児童生徒が、環境問題やエネルギー問題について、正しい理解を深め、責任をもって環境を守る行動がとれるよう、環境教育を進めます。基本的な生活習慣や規範意識を身につけ、生命の尊重、他者への思いやりなど豊かな心を育成するため、道徳教育の充実、伝統・文化を継承、発展させるための教育、豊かな感性、表現力、想像力を磨くための読書活動、豊富な読書経験の機会を提供するための図書室の環境整備、自然体験、社会体験、奉仕活動、文化芸術にふれる体験などによる創意ある教育活動、地域住民の様々な知識・技能や体験を活用する取組などを推進します。

健やかな体を育むために、地域食材による給食の充実、「弁当の日」の実施、栄養教諭の訪問指導などにより、学校給食を通じて食育の推進に努めます。

特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに適した教育の場や教育内容を提供できるよう、個別の支援計画の作成や教育相談活動を充実させ、保護者との共通理解を大切に、関係機関と連携し、児童生徒の実態に応じて学校全体での支援に努めます。

不適応や不登校などの問題を抱える児童生徒を支援するため、適応支援相談員の配置を継続し、支援体制の整備、関係機関との連携・協力を努めます。

### [主要事業]

- 少人数指導・個別指導・家庭学習の推進
- 学力向上対策事業
- 学校図書整備事業
- 食育教育の推進
- 環境教育の推進
- 学校適応相談員配置事業
- 特色ある学校づくり事業
- 教育用及び校務用コンピュータ更新事業

### 3 英語教育の推進

#### (1) 現状と課題

##### 《これまでの取組》

- 国際化や高度情報化が急速に進み、英語力はなくてはならないものになっていることから、児童生徒がこれからの国際社会を担ううえでの基盤づくりができるよう、外国語指導助手による指導体制の充実と教育内容の改善に努め、英語活動・英語教育を推進してきました。
- 各幼稚園・保育園にALTを派遣し英語活動を取り入れるなど、特色ある幼稚園教育を進めてきました。また、小学校においては、教育課程特例校の指定を文部科学省より受け、町独自のカリキュラムや評価規準に基づき、小学校全学年で英語活動を実施しました。
- 中学校においては、生徒の英語検定の受験を推奨し、全員受験を目指し、検定料に対する補助を継続してきました。また中学生の海外派遣事業も継続してきました。

##### 《課題》

- 幼・保・小学生への英語活動については、幼児期から英語に慣れ親しみ、グローバルな視野と感覚を有するコミュニケーション能力の育成を目指し、指導計画の検討、教材の選定等を継続して行い、本町英語教育の充実に資することが必要です。また、英語活動の指導力向上を目指し、各園・小学校教員等が参加し、基本的な指導方法を交流・研修する機会を継続して行うことが必要です。
- 中学生の英語検定受験者数は検定料の補助により以前よりも増加してきてはいますが、全員受験から合格者の増加につなげるため、補助のあり方も含めた創意工夫が必要です。
- 金ケ崎町と米国アマーフト町の姉妹都市交流の一環として、金ケ崎中学校と米国アマーフト町の中学校との交流を進めていますが、自国の歴史・文化の交流などを深める取組を推進して進め方に工夫が必要です。

#### (2) 目指すべき姿

国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りをもち、グローバルな物の見方や考え方の出来る人材育成を図るため、「英語教育の町金ケ崎」事業を推進し、各保育園・幼稚園・小学校・中学校での取組を充実させます。

#### (目標指標)

目標指標	現状値	目標値
中学校卒業時英検3級合格者割合 (英語教育実施状況調査)	38.8% (H26)	55%

### (3) 施策の方向

#### ①英語活動の充実

今後も継続して、英語指導助手を小学校全学年に派遣し、英語活動の推進に努め、町内各校児童の国際的視野の拡大を図り、グローバルな人材の育成に努めます。

また、幼稚園・保育園への英語指導助手の派遣も行い、保育の時間、英語指導助手による英語の歌や絵本の読み聞かせ等を通じて、幼児期から英語に触れることで、英語に親しみ、興味関心を高めます。

「英語教育の町金ヶ崎」の取組の一環として、小学校英語活動の指導力向上を目指し、各小学校教員等を対象とした研修会を行い、基本的な指導方法や実践事例の研修に取り組みます。

学校での英語学習を生かす場として、小学生を対象とし、長期休業中のイベントを開催します。

#### [主要事業]

- 外国語教育推進事業
- 「英語教育の町金ヶ崎」推進委員会
- 英語グローバルキャラバン

#### ②英語教育の充実

中学校に英語講師を町独自に1名継続配置し、ティーム・ティーチングによる授業改善、町が受験料を補助する英語検定の参加体制の向上など、英語の指導全般に係るコーディネーター的な役割を担います。

また英語指導助手を中学校にも派遣し、オールイングリッシュの授業を目指しながら学力向上に努めるとともに、生徒の国際的視野の拡大を図り、グローバルな人材の育成に努めます。

学校での英語学習を生かす場として、中学生を対象とし、長期休業中のイベントを開催します。

#### [主要事業]

- 外国語教育推進事業
- 英語講師配置事業
- 「英語教育の町金ヶ崎」推進委員会
- English DOJO



小学校での英語活動の授業



## 4 特別支援教育の推進

### (1) 現状と課題

#### 《これまでの取組》

- 適正な就学支援のために園・学校・関係機関と綿密な連携を図りながら、巡回訪問、就学指導委員会判定を基にした保護者面談を実施してきました。
- 支援を必要とする園児、児童、生徒に対し特別支援学級の設置や特別支援員の配置をするとともに、研修会へ参加等による教員のスキルアップに努めてきました。

#### 《課題》

- 全国的に顕著になってきている軽度発達障がいを含む特別な支援を必要とする幼児児童生徒の教育について各種研修会等を実施し、保育・教育が適切に行われるよう努めておりますが、園や学校の実情を的確に把握するとともに、さらなる条件整備等の対応が必要です。
- 現在も各園および学校においては、園児・児童生徒・保護者に寄り添った対応をしていますが、対象園児児童生徒が増加傾向にあることから、より良い支援が出来るよう教員および保育師の更なるスキルアップを図っていくとともに特別支援員の継続配置が必要です。

### (2) 目指すべき姿

障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが自己実現できる教育を目指します。そのために特別な支援を必要とする子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じるとともに、幼児期からの継続的・系統的な教育を目指します。

#### (目標指標)

目標指標	現状値	目標値
幼稚園・小学校・中学校における「個別の教育支援計画」の策定 (特別支援教育体制整備状況調査)	30% (H26)	100% (H32)

### (3) 施策の方向

#### ①支援体制の充実

幼児児童生徒の障がいの重度・重複化多様化への対応や、LD・ADHD等を含めた障がいのある子どもたちに対する支援、希望する進路実現への支援、通常学級に在籍する支援の必要な子どもへの対応等、特別支援教育の充実が求められている現在、園・学校への支援員配置により体制を充実させるとともに、個別の支援計画の整備や関係機関との連携による巡回相談を実施し、きめ細かい適切な支援を行います。

〔主要事業〕

- 就学指導委員会
- 巡回訪問

②学習環境の整備

研修の充実等による教職員等の専門性の向上を図り、発達障がいのある子どもも含めた一人一人のニーズに応じた学習環境の整備を、教材教具の充実や支援員の配置の面からも進めます。

〔主要事業〕

- 特別支援教育支援員配置事業
- 特別支援員配置事業
- 特別支援教育研修会

## 5 ふるさと教育の推進

### (1) 現状と課題

《これまでの取組》

- いわて型コミュニティスクール構想に掲げる「学校・家庭・地域との連携・協働による教育の推進」の実現に向け、本町では、保護者や地域住民と連携した開かれた学校づくりを推進するため、学校評議員の設置やまなびフェストの実践等により、学校経営の充実や児童生徒の育成を図ることができました。また、学校生活や授業の様子を一般公開するレッツゴーツースクールデーの開催により、地域との連携・協働を進めてきました。
- 家庭、学校、地域及び町が一体となり、自立する子どもの育成を目指し「子ども育成条例」を制定しました。

《課題》

- 総合的な学習の時間は、町が進める英語教育の時間と調整しながら、併せて郷土学習やキャリア教育など地域の理解を深める学習の時間を確保することが必要です。
- 「子ども育成条例」に掲げる子ども像実現のため、今後は具体的な取組の着実な実施が必要です。

### (2) 目指すべき姿

豊かな自然を持つ本町では、先人達が多様な文化を築いてきました。鳥海柵や大林城、要害や伝建群等々、全国に誇ることができる地域の宝が今も受け継がれています。

これら豊かな自然や文化の残る郷土の良さを学ぶ機会を持つことによって、金ケ崎町に誇りと愛着を持つ子どもたちを育てていくためにふるさと教育を充実していきます。

ふるさと教育は、児童生徒が、金ケ崎町に現存する郷土の自然や文化、社会、産業等と触れ合う機会を充実させ、そこで得た感動体験を重視することによって、ふるさとのよさを発見し、ふるさとへの愛着心を醸成し、ふるさとに生きる意欲の喚起を目指すものです。

(目標指標)

目標指標	現状値	目標値
要害歴史館での見学学習 (小学校、中学校在学中にそれぞれ1回以上)	50% (H26)	100% (H32)

(3) 施策の方向

①地域の教育力の活用

小学校において「ふるさと教育」を実施すると共に、町内にある要害歴史館や鳥海柵跡などの史跡や施設を利用した学習の推進を行います。

また、郷土学習資料（小学校「わたしたちの金ケ崎」）を利用した社会科学習に積極的に取り組みます。郷土の伝統文化に親しむために、総合的な学習の時間や特別活動の時間に体験活動を取り入れるとともに、地域に伝わる伝統文化を広く周知するとともに、伝統文化の継承を図ります。

学校と地域が連携し、金ケ崎町の歴史文化をさまざまな角度から学ぶ教材の充実を図り、活用します。

[主要事業]

- 地域に開かれた学校づくり
- 社会科副読本編集事業

②支援体制の充実

道徳における地域に関わる自作教材の作成や社会科・生活科・総合的な学習に時間等における地域の学習資源や人材発掘に努めます。

また、子どもたちに、地域行事や地域の公民館行事への積極的な参加を働きかけ、地域の人々と交流しながら、それぞれの地域に根ざした伝統・文化・産業に親しませることで、地域の一員としての自覚を育てていきます。

地域の学習資源や人材を活用し、金ケ崎町について学ぶ活動が展開できるよう、地域と学校、行政が一体となって支援体制の充実を図ります。

[主要事業]

- 子どもはげまし制度

## 第2節 生涯を通じて学びあう人づくりの推進

### 1 生涯教育環境の充実

#### (1) 現状と課題

##### 《これまでの取組》

○時代の変化に対応しながら、生涯教育における重点施策等の見直しや「金ケ崎町生涯教育研究センター」の設置等を行い、住民や社会が求める教育、学習機会の提供や研究を進めてきました。

○「金ケ崎町生涯教育研究センター」では、岩手大学との共同研究により、今後の生涯教育のあり方を「子ども」と「高齢者」に焦点を絞り、少子高齢化に対応した人づくりの方向性をまとめました。

○地区生涯教育センター（公民館）の学びの機能及び地域づくりの機能の充実を進めてきました。

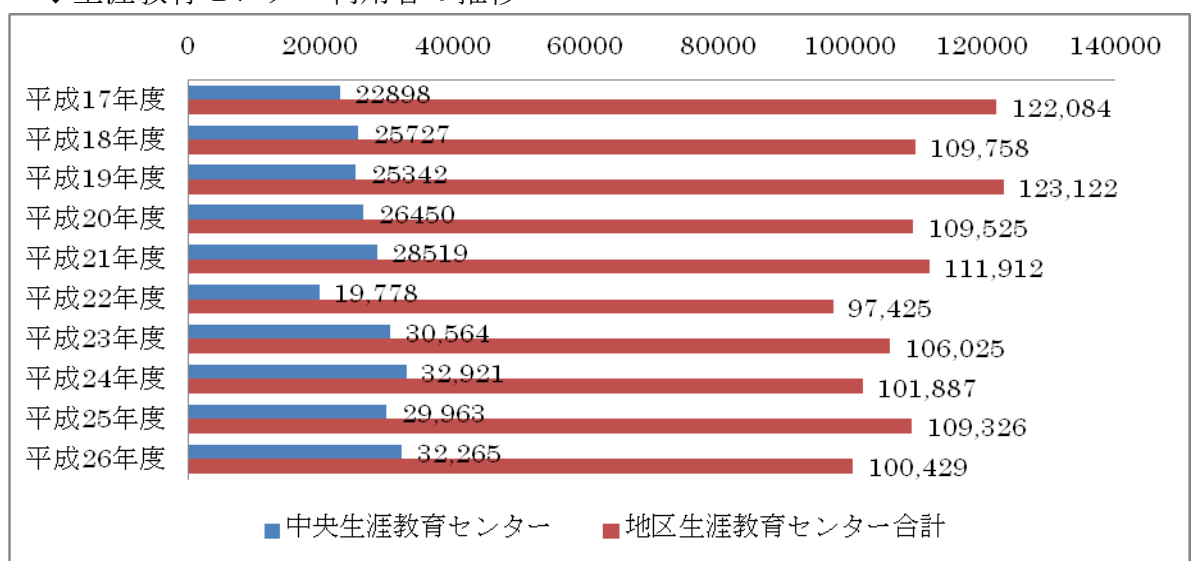
##### 《課題》

○生涯教育や自己学習による学習成果をまちづくりに活かすため、情報の共有や活躍する機会の創出等の取組が必要です。

○次代を担う子どもを社会全体で育むため、家庭、学校、地域、行政の連携により、早寝早起き朝ごはん、体力の向上、メディアとの関わり、豊かな体験活動等を支える環境づくりが必要です。

○高齢者世代等が有する豊富な経験と知識を地域活動に活かすため、ボランティア等の養成や活躍の場を創出し、その知識や経験を伝承する取組が必要です。

#### ◆生涯教育センター利用者の推移



## (2) 目指すべき姿

- 住み慣れた地域で、学習や社会活動を通じて既存の組織にとらわれないコミュニティが形成できる環境整備
- 学びによる自己実現や学びの成果を社会活動に活かせる環境整備

### (目標指標)

目標指標					現状値	目標値
<b>施設の利用者数</b> (中央及び地区生涯教育センター) <small>現状値内訳：中央 32,265 人、街 31,476 人、三ヶ尻 21,071 人、南方 17,550 人、西部 8,539 人、永岡 10,818 人、北部 10,975 人</small>					132,694 人 (H26)	132,694 人 (現状維持)
<b>青少年事業、三世代交流事業開催回数等</b> (①回数、②参加者数、③携わった大人の数) <small>現状値内訳</small>					①回数 85 回 ②参加者数 2,295 人 ③携わった大人の数 1,022 人 (H26)	①回数 85 回 ②参加者数 2,295 人 ③携わった大人の数 1,022 人 (現状維持)
No.	地区	回数	参加者	携わった大人		
1	中央	62	1,650	290		
2	地区	23	645	732		

## (3) 施策の方向

### ①生涯教育推進体制の充実

町民の学習要求や課題解決に必要な事業推進のため、審議会及び各種委員会等を開催し、事業評価及び取組みの検討を行います。

また、各種研修を行い社会教育関係職員の資質向上を図るとともに、学習ニーズに沿った企画運営を行えるよう人材育成に取り組めます。

#### [主要事業]

- ・生涯教育審議会、社会教育委員会議、生涯教育研究センター研究会、地区生涯教育センター運営懇談会の開催
- ・社会教育関係職員等研修会、各種研修会の開催

### ②生涯学習環境の整備充実

町民の自主学習を支援するため、学習情報の提供や関係機関や団体と連携のうえ、多様な学習を提供できる支援体制の充実を図ります。

また、いつでも、どこでも学習できる環境を整えるため、社会教育施設・設備の管理や計画的な修繕を行います。

#### [主要事業]

- ・学習にかかる相談及び情報提供
- ・学習情報発信 (広報かねがさき、教育委員会だより、地区館だより、町HP他)

- ・社会教育施設の整備

### ③地域社会で子どもを育む生涯教育の推進

規範意識や豊かな人間性を育むために、家庭、地域、学校、行政の連携により、「家庭教育宣言」及び「地域子育て宣言」の普及のもと、地域全体で子どもを育む取組みを推進します。

〔主要事業〕

- ・生活習慣の確立（早寝・早起き・朝ごはんの習慣化、食及び睡眠の質の向上）
- ・メディア教育の提供（インターネット等の普及等により多様な情報があふれている中、情報を自己の目的に適合するように使用できる能力（情報リテラシー）の習得、適切なメディア対応力の習得）
- ・豊かな体験活動の提供（自然体験、社会体験、世代交流、生活体験）
- ・放課後子ども教室の実施

### ④地域社会の担い手を育む生涯教育の推進

心身共に健康で働くとともに、次代を担う青少年の育成を支援、社会活動に参画する人材の育成を行います。

〔主要事業〕

- ・子育てや子育て支援に係る学習機会の提供
- ・職業能力開発に係る学習機会の提供（情報リテラシー、国際理解力等）
- ・社会活動の促進（「ひとりいち学習等」によるまちづくりへの参画）

### ⑤豊かな高齢期を支える生涯教育の推進

心身共に健康で自立した生活を送ると共に、その豊富な技術や知識を地域社会に伝承する環境づくりを支援します。

〔主要事業〕

- ・健康づくり事業
- ・生きがいづくり事業
- ・地域社会での活躍の促進（世代交流事業や放課後子ども教室における指導等）

### ⑥芸術文化活動の促進

子どもの豊かな情操を育むため、優れた芸術文化の鑑賞機会を提供するとともに、町民の芸術文化活動の促進を図るため、創作活動や発表機会の提供により、芸術文化関係団体の活動支援や人材育成に努めます。

〔主要事業〕

- ・青少年劇場開催
- ・芸術文化協会活動支援
- ・町民劇場開催支援



## 2 読書活動の推進と資料の活用

### (1) 現状と課題

#### 《これまでの取組》

○「まちづくりは人づくり」を基本理念とする本町生涯教育の方針に基づき、町民が親しみやすい図書館を目指して環境を整備し、読書普及に取り組んできました。地域や施設、学校等と連携して取り組んだことにより特に学校図書館の読書環境が整ってきました。

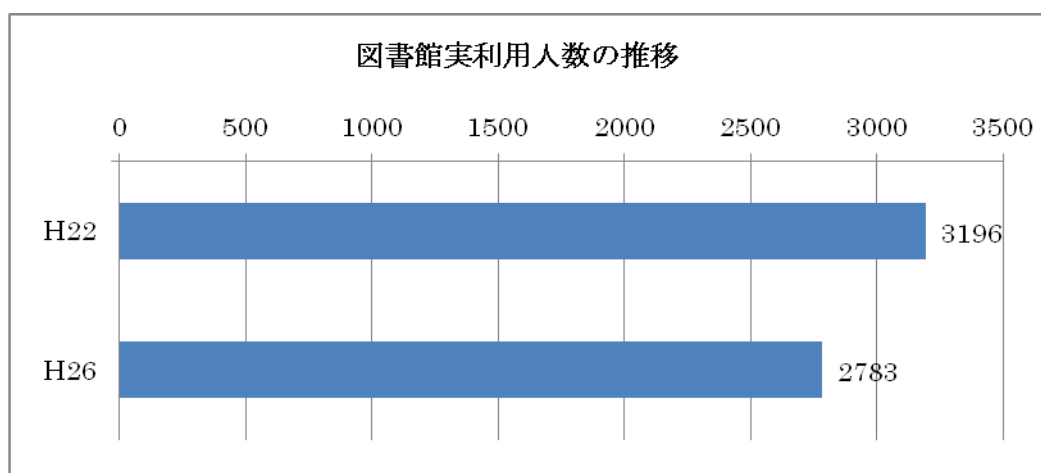
○国際友好姉妹都市やエミリオ・ディキンソン関連事業を展開し、国際理解感覚の醸成に取り組ましました。読書感想画展示会に、エミリオ・ディキンソンの詩の印象画が多く出品されました。

#### 《課題》

○小中学生については学校内での貸出者数が増えたことにより、図書館での貸出者数が減少傾向にあります。それ以外の年代層の貸出者数も減少しているため、町民が求める図書館のあり方についてニーズの把握に努め、図書館の利用者数を増やしていくことが課題です。

○エミリオ・ディキンソン事業への関心を拡大するため、現在英語教育に取り組んでいる小学生も対象にする等事業のあり方に創意工夫が必要です。また、今後エミリオ・ディキンソン関連の寄贈資料の増加が予想されるため、保管場所や整理方法等の対応が課題です。

◆図書館実利用人数の推移 H22～H26 の推移



※413人減少 ▲13%

### (2) 目指すべき姿

○図書資料や町民の活動の記録等が適切に収集管理され、幼児から高齢者までさまざまな年代層に利用される環境整備

○国際色が漂い、町民の知的好奇心やニーズに応じた図書資料が提供される環境整備



(目標指標)

目標指標	現状値	目標値
年間実利用者数	2,783 人 (H26)	2,783 人 (現状維持)
エミリオ・ディキンソン詩の朗読会参加者数	50 人 (H25)	80 人

(3) 施策の方向

①読書活動の推進

図書館利用の向上を図るため、図書館資料等を整備し、読みたい本が読めるよう読書環境を整えます。

また、読書への関心や意欲高揚のため、各種事業に取り組みます。特に、子ども時代からの読書を大切に捉え、読書環境づくりを支援します。

[主要事業]

- ・ 図書資料整備事業（蔵書点検、図書資料の廃棄、図書資料の購入、相互貸借、国際友好姉妹都市コーナーの設置）
- ・ 各種企画事業、広報（読書普及誌、ホームページ、図書館メール）
- ・ 子ども向け事業（子ども歓迎の日、ブックラリー、一日図書館員、読書感想画展示会）
- ・ 学校図書館支援活動
- ・ 移動図書館車運行事業
- ・ 国際友好姉妹図書館資料交流事業

②エミリオ・ディキンソン資料の活用推進

町民に詩人エミリオ・ディキンソンの資料に触れる機会を提供することで、国際文化理解への関心を促します。

[主要事業]

- ・ 資料の保存・提供・複写サービス
- ・ エミリオ・ディキンソン資料センター運営協議会
- ・ 日本エミリオ・ディキンソン学会への参加
- ・ 詩の朗読発表会
- ・ 情報発信（ホームページ町のWEB版、広報かねがさき、中高生用館報）
- ・ ジョーンズ図書館との資料交流



こども歓迎の日  
親子で折り紙制作



こども歓迎の日  
父の日のプレゼントづくり

### 第3節 スポーツに親しむ人づくりの推進

#### 1 生涯スポーツの振興

##### (1) 現状と課題

###### 《これまでの取組》

###### ○生涯スポーツの振興

いつでもどこでも誰でも気軽にスポーツに親しめるよう既存競技スポーツに加え、総合型スポーツや高齢者・障がい者が取り組める運動の紹介など、様々なスポーツの形を提案しながら、スポーツ人口の増加に努めてきました。

###### ○スポーツ競技力の向上

体育協会、スポーツ少年団等スポーツ関係団体の活動を支援するとともに、スポーツ関係団体の連携を図りながら、スポーツ競技力の向上に努めてきたことで全国大会や東北大会で活躍するチームや選手が出てきました。

###### ○岩手国体に向けた取組

平成28年度希望郷いわて国体の開催に向け、施設整備を進めるとともに、リハーサル大会を開催し、実施体制や受入体制を整えました。

###### 《課題》

○健康で生きがいのある生活を送るため、総合型スポーツクラブやスポーツ推進委員を活用しながら、ニュースポーツ等の普及に努め、スポーツ人口の増加を図る必要があります。

○各種目別に東北大会や全国大会に出場するチームや選手が増加するよう体育協会やスポーツ少年団等のスポーツ関係団体の活動を支援するとともにスポーツ指導者の育成に努める必要があります。

○国体の開催を契機としてスポーツの活力を生かした取組を進める必要があります。

###### ◆金ケ崎町体育協会登録加盟団体会員数の推移

	H23	H24	H25	H26	H27
各種目登録会員数	1,157人	1,204人	1,131人	1,096人	1,045人
指導者数	88人	86人	83人	105人	92人
公認指導者数	72人	58人	49人	52人	49人
公認審判員数	242人	180人	172人	189人	189人

※金ケ崎町体育協会資料より

◆金ケ崎町スポーツ少年団本部登録者数の推移

	H23	H24	H25	H26	H27
組織数	24 団	24 団	22 団	19 団	19 団
団員数	447 人	402 人	412 人	367 人	371 人
指導者数	97 人	79 人	76 人	70 人	69 人

※金ケ崎町スポーツ少年団本部資料より

(2) 目指すべき姿

○子どもから高齢者まで地域で気軽にスポーツに親しめる体制整備

○いつでもどこでも誰でも気軽にスポーツに親しめる環境整備

(目標指標)

目標指標	現状値	目標値
町内体育施設の年間利用者数 (H26 森山+各体育館、町民運動場利用者数)	180,032 人 (H26)	190,000 人
東北大会以上に出場したスポーツチームの数	4 チーム	6 チーム
成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	62.9%	64.0%

(3) 施策の方向

①生涯スポーツの推進

年代層に応じたスポーツ活動等子どもから高齢者まで生涯を通じて楽しく日常的にスポーツを楽しむことができるよう生涯スポーツの推進に努めます。

[主要事業]

- ・スポーツ少年団本部への活動助成・支援
- ・全国大会や東北大会等へ参加する選手派遣費用への一部助成
- ・各種スポーツ大会の実施（金ケ崎マラソン大会、町民スポーツ大会、町民運動会（5年に1回）、町民ゴルフ大会等）
- ・町内各競技スポーツイベントの共催と後援
- ・ニュースポーツの普及促進
- ・保健部門との連携による金ケ崎町健幸増進計画（仮称）の推進

※成果指標

指標	単位	現状値	目標値
成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	%	62.9	64.0以上
成人の週 3 回以上のスポーツ実施率	%	23.1	26.6以上
成人肥満者（BMI 25以上）の割合（40歳以上）	%	男性 27.3 女性 24.0	男性 26.0未満*1 女性 22.0未満*1

\* 1 健康かねがさき21プラン（第2次）の目標値です。

②スポーツ関係団体との連携強化

スポーツ関係団体の活動を支援するとともに、連携を密にし、役割分担を明確にししながら、スポーツ活動推進体制の整備充実に努めます。

〔主要事業〕

- ・競技団体の実施する指導者等講習会の開催周知や協力による支援
- ・岩手県等が開催する講習会等の開催周知
- ・町内企業への指導者の派遣要請
- ・町内企業への「金ヶ崎マラソン大会」や国体への協賛要請
- ・スポーツ推進委員の資質向上のための研修会への派遣

③情報提供の整備充実

情報共有によるスポーツの普及促進を図ります。

〔主要事業〕

- ・町のホームページを活用したスポーツ事業や指導者の情報提供
- ・町のホームページを活用した各種大会などの運営スタッフの募集
- ・SNSの即時性や拡散性等を活かしたスポーツ施策のホームページの開設

④スポーツ関係団体の支援

競技スポーツの振興を図るためには、スポーツ大会等のスポーツ事業を企画運営する組織や人材が必要です。また、競技力を向上させる場合にも、指導に当たる組織や人材が必要です。

このため、スポーツ競技力の振興を目指し、スポーツを支えるための組織・人材等の支援と連携強化とを図ります。

〔主要事業〕

- ・体育協会運営事業への助成
- ・体育協会が実施するスポーツ指導者育成事業への支援
- ・生涯スポーツ事業団の運営支援

- ・生涯スポーツ事業団が実施する各スポーツ事業への後援
- ・金ヶ崎スポーツクラブへの活動助成
- ・スポーツ関係団体の活動を町の広報、ホームページに掲載

#### ⑤指導者の養成と確保

町民の多様なスポーツニーズに応えるため、スポーツ関係団体と連携を図りながら、公認指導者等のスポーツ指導者の育成や活用に努めます。

〔主要事業〕

- ・スポーツ指導者養成事業の実施
- ・スポーツ指導者を対象とした研修会、意見交換会の実施
- ・スポーツ指導者リストの作成・活用

#### ※成果指標

指標	単位	現状値	目標値
指導者数	人	105人	138人
公認指導者数	人	52人	67人
公認審判員の増加	人	189人	204人
スポーツ少年団体力テスト結果を全国平均値より高める	種目	男子 1種目/5種目 女子 2種目/5種目	男子 3種目/5種目 女子 3種目/5種目

#### ⑥2016「希望郷いわて国体」への取組

2016「希望郷いわて国体」の成功を目指し、町民総参加のもと、企業、団体、ボランティア等多様な主体が参画し、全国から訪れる方々をおもてなしの心でお迎えし、感動と友情の輪を広げ、緑豊かな自然や歴史と文化の薫る金ヶ崎町の魅力を全国に発信します。

〔主要事業〕

- ・参加選手・監督等全国から訪れる方々への花いっぱい運動等によるおもてなし事業の実施
- ・ボランティアスタッフの募集、研修会の実施
- ・町内出身国体選手への支援
- ・「希望郷いわて国体」の開催を記念した講演会の実施、大会等の誘致

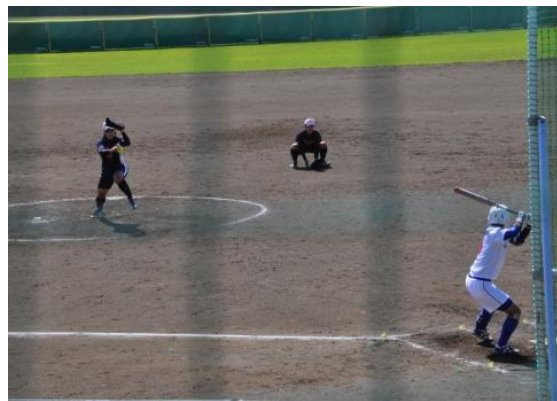
#### ⑦スポーツ環境の整備・充実

少子高齢化の進行や生活習慣の多様化によりスポーツを取り巻く環境も大き

く変化しており、スポーツ競技力の向上だけでなく、心身の健康づくり、仲間づくり、生きがいつくり等さまざまな目的で気軽にスポーツに親しめる環境づくりに努めます。また、町民の多様なスポーツニーズに対応できるようスポーツ施設の適正な維持管理や整備に努めます。

〔主要事業〕

- ・利用者ニーズに応じた施設管理の実施
- ・町内小中学校体育施設の開放
- ・スポーツ施設修繕計画の策定
- ・出前講座事業による各地域においてニュースポーツの講習会や大会の実施
- ・ニュースポーツ指導者養成研修会の実施



## 第4節 歴史を伝え活かす人づくりの推進

### 1 文化財の保存と活用

#### (1) 現状と課題

##### 《これまでの取組》

○国指定史跡の鳥海柵跡や南部領伊達領境塚、国選定城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区等、全国に誇る文化財を有しており、文化財の公開や学習会等の開催の他、文化財保護の活動をする地域の団体等の育成支援を行ってきました。

○金ヶ崎要害歴史館は仙台藩要所「金ヶ崎要害」と当町の文化財を保存のため収蔵するとともに、展示を行い当町の歴史文化を紹介、発信してきました。また、同保存地区や町内の文化財や歴史施設への回遊、交流に取り組んできました。

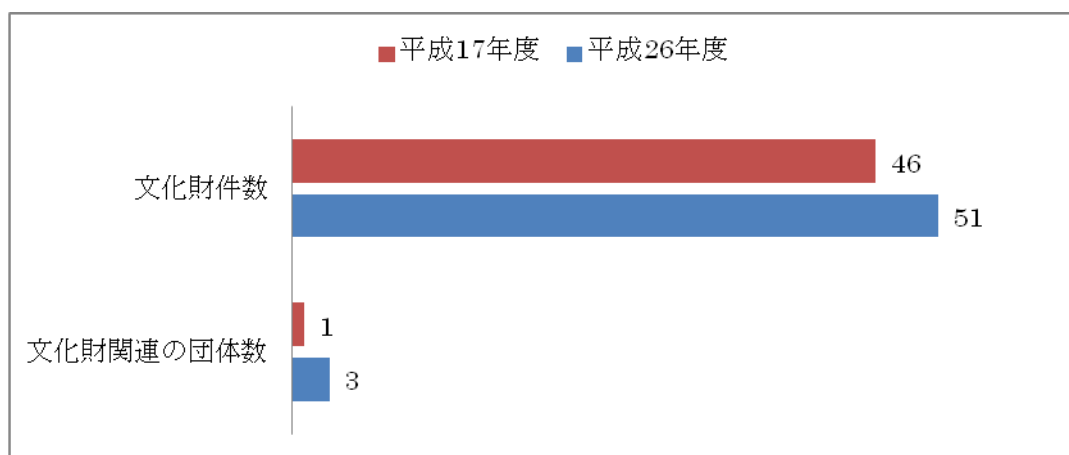
○旧陸軍省軍馬補充部六原支部官舎について、国登録有形文化財に向けた調査を行うとともに、地元住民と今後の利活用について検討を進めてきました。

##### 《課題》

○所有者の高齢化や不在のため、適切に継承（相続）されない文化財の増加が予想されることから、地域として保存活用していくための支援が求められます。

○歴史文化を伝える貴重な文化財を町内外の方に知ってもらい、地域への誇りや愛着心を育てるための周知活動を行うことが求められます。

○文化財の維持管理や保存団体会員の高齢化等の課題に対応するため、新たな団体や人材による積極的な文化財の活用等が求められます。



## (2) 目指すべき姿

○地域の歴史文化を継承、保存できる体制づくり

○転入者や町外の方も気軽に金ケ崎町の歴史文化に触れること、地域が受け入れることができる体制づくり

(目標指標)

目標指標	現状値	目標値
地域や保存団体が主体となって実施する事業数	3件 (H26)	6件
住民による保存が行われる文化財数 (郷土芸能団体を除く)	4 (H26)	6
伝統的建造物群保存地区の来訪者数		
白糸まちなみ交流館	5,010人	5,500人
片平丁・旧大沼家侍住宅	4,101人	4,600人
旧坂本家侍住宅	2,486人	3,000人
土合丁・旧大沼家侍住宅	445人	1,000人
金ケ崎要害歴史館	3,966人(9ヶ月)	5,000人
	(H26)	

## (3) 施策の方向

### ①文化財保護法の順守・啓発活動

国民の財産である文化財を保護するために、文化財の講座や説明会等を通して文化財の大切さと法律の周知を行い、町民の理解を深めます。また、文化財を身近に感じてもらえるように発掘調査や伝統文化等の体験学習を行います。

さらに、文化財保存・整備体制を充実するとともに文化財調査委員の機能強化を図り、関係部署に働きかけるように推進します。

[主要事業]

- ・国指定史跡の鳥海柵跡や南部領伊達領境塚、国選定城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区、町指定史跡の大林城跡、奥州道中一里塚等の文化財に関連した講座や説明会の開催
- ・発掘調査や伝統文化（笛・太鼓、茅葺き等）等の体験学習の開催
- ・文化財調査委員会議、文化遺産保存整備事業検討委員会（庁内）の開催

### ②国指定史跡鳥海柵跡の保存管理・活用

史跡を後世に伝えるため、史跡鳥海柵跡保存整備指導委員会を開催し、地元住民及び地権者と協力して、保存管理計画に基づいた適切な保存管理と整備を行います。

また、来訪者への史跡案内や歴史的価値を発信するため、ガイドや保存団体



の支援を検討します。

さらに、藤原氏平泉関連遺産等や町内の文化財との連携を行います。

〔主要事業〕

- ・ 史跡鳥海柵跡保存整備指導委員会の開催
- ・ 鳥海柵跡の内容確認調査
- ・ シンポジウムや学習会の開催
- ・ ガイドや保存団体の支援検討

### ③国選定城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区の保存・整備

城内諏訪小路伝統的建造物群保存地区第2期保存事業計画に基づき、国の補助を活用しながら、地区住民とともに保存整備事業を推進するとともに、増加する来訪者の対応を関係機関と連携して取り組みます。さらに、伝統的建造物群保存地区保存会の支援を行います。

〔主要事業〕

- ・ 伝統的建造物群保存地区第2期保存事業計画の実施
- ・ 伝統的建造物群保存地区団体連絡会議の開催
- ・ 伝統的建造物群保存地区保存会の支援
- ・ 白糸まちなみ交流館と公開侍住宅の指定管理

### ④国指定史跡南部領伊達領境塚の保存活用

北上市と連携して保存活用を図ります。また、金ヶ崎要害歴史館の展示を通じて史跡の歴史やその価値を紹介します。

〔主要事業〕

- ・ 南部領伊達領境塚の環境整備
- ・ 城内諏訪小路伝建地区及び鳥海柵との連携による各種事業の実施

### ⑤金ヶ崎要害歴史館の管理運営

仙台藩要所「金ヶ崎要害」と金ヶ崎町の歴史文化の展示と企画展を開催し、広く町民に紹介します。また、収蔵資料の整理、目録の作成を進めます。

公開侍住宅や記念館等との連携、歴史文化事業との連携を図り回遊拠点、交流の場としての施設とします。

〔主要事業〕

- ・ 金ヶ崎要害歴史館収蔵資料の整備
- ・ 常設展示の充実と企画展示の開催
- ・ 歴史講座、郷土芸能演舞会等の開催



鳥海柵跡の散策会



金ヶ崎要害歴史館お月見コンサート

## 2 郷土文化の継承

### (1) 現状と課題

#### 《これまでの取組》

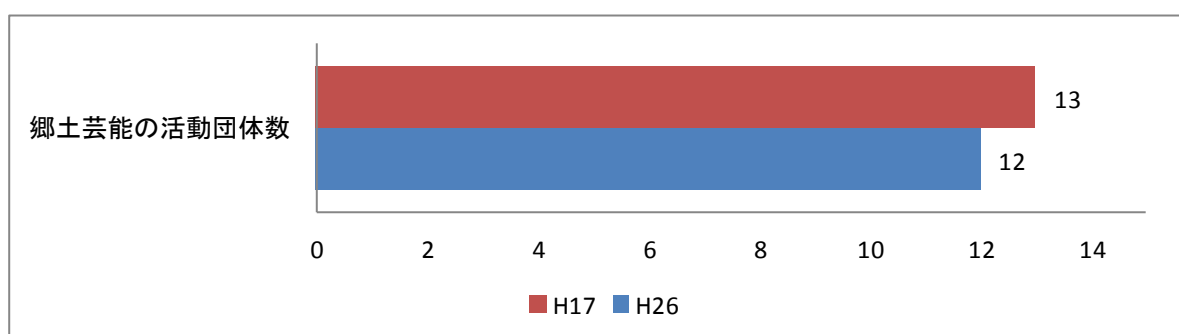
○当町の先人 千田正や桑島重三郎は、記念館の必要な修理を行うとともに、地元自治会や桑島重三郎を顕彰する会による記念館の管理や活用に対する支援を行ってきました。

○指定無形民俗文化財や町郷土芸能保存会へ活動補助金を交付し、発表大会や運営等の支援を行ってきました。

#### 《課題》

○桑島重三郎の顕彰を行い、地域住民の中で先人の偉業の共通理解を図ることが必要です。

○農作業の近代化（機械化、個人経営）や娯楽の多様化によって、郷土に伝わる文化（年中行事、祭事、郷土芸能）は存在意義が希薄化し、披露機会や関わる住民が減少したことから、郷土文化が地域の中で重要視されなくなったことを見直す機会が必要です。



### (2) 目指すべき姿

○親しみのある郷土文化が継承され、季節や思い出を感じながら生活できる環境整備

○転入者や町外の方も、自分たちの郷土文化であると感じることができる受け入れ態勢の整備

#### (目標指標)

目標指標	現状値	目標値
記念館への来館者数		
千田正記念館	444 人	500 人
桑島重三郎記念館（軍馬補充部官舎）	35 人	500 人
	(H26)	

無形民俗文化財（郷土芸能）の発表機会数（郷土芸能発表大会、町主催事業、夏祭り、神社等の祭り、イベント・披露宴出演等）	45回 (H26)	50回
郷土芸能団体の加入者数	(登録員)258人 (H26)	現状維持

### (3) 施策の方向

町にゆかりのある先人の資料を公開して功績を顕彰します。旧陸軍省軍馬補充部六原支部官舎は国登録有形文化財とし、桑島重三郎の功績、同支部の歴史を紹介する記念館、地域振興施設等として整備し、指定管理者による利活用を行います。また、千田正記念館の登録有形文化財の検討をし、三ヶ尻地区住民による利活用を推進します。

郷土芸能保存会等の文化財保存団体と連携し、文化財の継承のための事業を実施します。さらに、その活動を発表する場を提供し、その活動を情報発信します。

#### 〔主要事業〕

- ・旧陸軍省軍馬補充部六原支部官舎の整備並びに指定管理
- ・千田正記念館の国登録有形文化財の検討、三ヶ尻地区と連携した指定管理
- ・無形民俗文化財団体の運営や発表大会の支援



金ヶ崎町立千田正記念館



金ヶ崎町郷土芸能保存会の演舞会

## 幼稚園児数の推移(平成23年度～平成27年度)

単位：人

年度	学年	六原幼稚園		三ヶ尻幼稚園		永岡幼稚園		南方幼稚園		合計	
平成23年度	3歳児	15	(1)	6	(1)	16	(1)	34	(2)	71	(5)
	4歳児	10	(1)	16	(1)	10	(1)	40	(2)	76	(5)
	5歳児	20	(1)	15	(1)	7	(1)	40	(2)	82	(5)
	計	45	(3)	37	(3)	33	(3)	114	(5)	229	(14)
平成24年度	3歳児	10	(1)	20	(1)	5	(1)	32	(2)	67	(5)
	4歳児	19	(1)	8	(1)	16	(1)	39	(2)	82	(5)
	5歳児	10	(1)	14	(1)	9	(1)	38	(2)	71	(5)
	計	39	(3)	42	(3)	30	(3)	109	(6)	220	(15)
平成25年度	3歳児	9	(1)	10	(1)	14	(1)	38	(2)	71	(5)
	4歳児	11	(1)	18	(1)	5	(1)	40	(2)	74	(5)
	5歳児	19	(1)	6	(1)	16	(1)	39	(2)	80	(5)
	計	39	(3)	34	(3)	35	(3)	117	(6)	225	(15)
平成26年度	3歳児	10	(1)	4	(1)	9	(1)	31	(2)	54	(5)
	4歳児	10	(1)	12	(1)	14	(1)	41	(2)	77	(5)
	5歳児	10	(1)	19	(1)	5	(1)	41	(2)	75	(5)
	計	30	(3)	35	(3)	28	(3)	113	(6)	206	(15)
平成27年度	3歳児	10	(1)	10	(1)	6	(1)	35	(2)	61	(5)
	4歳児	13	(1)	3	(1)	9	(1)	34	(2)	59	(5)
	5歳児	9	(1)	12	(1)	14	(1)	42	(2)	77	(5)
	計	32	(3)	25	(3)	29	(3)	111	(6)	197	(15)

※学校基本調査に基づく数値であり、] は複式をあらわし、()内は学級数をあらわすもの

## 児童生徒数の推移(平成23年度～平成27年度)

単位：人

年度	学年	金ヶ崎小	第一小	永岡小	三ヶ尻小	西 小	小学校計	金ヶ崎中
平成 23 年度	1	67 (2)	29 (1)	20 (1)	19 (1)	13 (1)	148 (6)	156 (4)
	2	70 (2)	25 (1)	17 (1)	28 (1)	14 (1)	154 (6)	132 (5)
	3	79 (2)	19 (1)	21 (1)	17 (1)	12 (1)	148 (6)	139 (4)
	4	92 (3)	28 (1)	13 (1)	20 (1)	11 (1)	164 (7)	
	5	72 (2)	27 (1)	18 (1)	28 (1)	9 (1)	154 (6)	
	6	67 (2)	36 (1)	19 (1)	9 (1)	9 (1)	140 (6)	
	特	11 (4)	2 (1)	3 (1)	4 (2)	0 (0)	20 (8)	4 (2)
	計	458 (17)	166 (7)	111 (7)	125 (8)	68 (6)	928 (45)	431 (15)
平成 24 年度	1	61 (2)	30 (1)	10 (1)	19 (1)	12 (1)	132 (6)	137 (4)
	2	68 (2)	29 (1)	20 (1)	19 (1)	13 (1)	149 (6)	154 (4)
	3	65 (2)	25 (1)	16 (1)	27 (1)	11 (1)	144 (6)	130 (4)
	4	78 (2)	18 (1)	21 (1)	18 (1)	12 (1)	147 (6)	
	5	89 (3)	29 (1)	13 (1)	20 (1)	12 (1)	163 (7)	
	6	71 (2)	28 (1)	18 (1)	28 (1)	8 (1)	153 (6)	
	特	11 (4)	1 (1)	3 (1)	4 (2)	3 (1)	22 (9)	7 (2)
	計	443 (17)	160 (7)	101 (7)	135 (8)	71 (7)	910 (46)	428 (14)
平成 25 年度	1	71 (3)	18 (1)	13 (1)	18 (1)	10 (1)	130 (7)	155 (5)
	2	62 (2)	30 (1)	10 (1)	19 (1)	11 (1)	132 (6)	135 (4)
	3	67 (2)	30 (1)	20 (1)	18 (1)	13 (1)	148 (6)	155 (4)
	4	66 (2)	26 (1)	169 (1)	27 (1)	11 (1)	146 (6)	
	5	80 (2)	20 (1)	21 (1)	18 (1)	12 (1)	151 (6)	
	6	87 (3)	28 (1)	12 (1)	19 (1)	13 (1)	159 (7)	
	特	16 (4)	2 (1)	3 (1)	6 (2)	4 (1)	31 (9)	6 (2)
	計	449 (18)	154 (7)	95 (7)	125 (8)	74 (7)	897 (47)	451 (15)
平成 26 年度	1	66 (2)	23 (1)	21 (1)	18 (1)	11 (1)	139 (6)	157 (5)
	2	68 (2)	19 (1)	13 (1)	17 (1)	11 (1)	128 (6)	153 (4)
	3	65 (2)	29 (1)	10 (1)	21 (1)	10 (1)	135 (6)	134 (4)
	4	69 (2)	31 (1)	20 (1)	17 (1)	13 (1)	150 (6)	
	5	64 (2)	26 (1)	16 (1)	27 (1)	11 (1)	144 (6)	
	6	81 (3)	20 (1)	21 (1)	19 (1)	12 (1)	153 (7)	
	特	20 (5)	5 (2)	3 (1)	6 (3)	4 (1)	38 (12)	8 (3)
	計	433 (18)	153 (8)	104 (7)	125 (9)	72 (7)	887 (49)	452 (16)
平成 27 年度	1	72 (3)	21 (1)	7 (1)	21 (1)	12 (1)	133 (7)	152 (5)
	2	67 (2)	24 (1)	21 (1)	19 (1)	11 (1)	142 (6)	155 (4)
	3	69 (2)	20 (1)	13 (1)	17 (1)	12 (1)	131 (6)	153 (4)
	4	66 (2)	29 (1)	10 (1)	20 (1)	11 (1)	136 (6)	
	5	68 (2)	32 (1)	19 (1)	17 (1)	14 (1)	150 (6)	
	6	65 (2)	26 (1)	16 (1)	27 (1)	10 (1)	144 (6)	
	特	19 (4)	4 (2)	4 (2)	5 (3)	3 (1)	35 (12)	6 (2)
	計	426 (17)	156 (8)	90 (8)	126 (9)	73 (7)	871 (49)	466 (15)

※学校基本調査に基づく数値であり、]は複式をあらわし、( )内は学級数をあらわすもの

## 平成 2 7 年度学校施設設備の状況

学 校		金ヶ崎小	第一小	永岡小	三ヶ尻小	西 小	金ヶ崎中	
建築年度		昭和 53～ 54 年度 平成 10 年 度	平成 22 年度	平成 22 年度	昭和 45・ 56 年度 平成 17 年 度	昭和 49～ 51 年度	昭和 42～ 43 年度 平成 21 年 度	
教 室 数	普 通 教 室	1 3	6	6	6	6	1 3	
	特 別 教 室	理 科 室	1	1	1	1	1	2
		生 活 室						
		音 楽 室	1	1	1	1	1	1
		図画工作室	1			1		
		美 術 室						1
		技 術 室						2
		家 庭 室	1	1	1	1	1	2
		外 国 語 室						
		視 聴 覚 室	1					
		コ ン ピ ュ ー タ 室	1	1	1	1	1	1
	図 書 室	1	1	1	1	1	1	
	特 別 活 動 室	2					2	
	教 育 相 談 室		1	1			1	
	進 路 資 料 ・ 指 導 室							

※ 平成 2 7 年度公立学校施設台帳より

## 金ヶ崎町育英基金貸付状況

単位：人

年 度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
人 数	0	0	0	0	0

## 進学者数の推移（平成 23 年度～平成 27 年度）

単位：人

年 度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
卒業生数	1 4 1	1 3 1	1 5 8	1 3 8	1 5 6
高校進学者数	1 4 1	1 3 0	1 5 6	1 3 7	1 5 4
金ヶ崎高校進学者数	2 2	2 3	3 0	1 9	1 2
高校進学者数に占める 金ヶ崎高校進学者の割合	1 5 . 6 %	1 7 . 7 %	1 9 . 2 %	1 3 . 9 %	7 . 8 %